

心理的安全性が看護学生に与える影響

—看護学生が主体的な臨地実習を行うための提案—

氏 名 山口 はるな

指導教員 松田 憲

要旨

Edmondson (2021) は、20年にわたって優秀なチームについての研究を行い、さまざまな職場で、目標に向かって協働するパフォーマンスに差が生じるのは、「心理的安全性」がチーム内で保たれているか否かが一つの要因であることを突きとめた。チームの心理的安全性とは、「チームの中で、対人関係におけるリスクを取っても大丈夫だ、というチームメンバーに共有される信念のこと」と定義される。

看護学生の臨地実習における心理的安全性について、筆者が臨地実習指導中に、看護学生に発言を促すことで、それまでにほとんど発言をしておこなった学生が積極的に発言をしたという出来事があった。この出来事は、心理的安全性が影響しているのではないかと考え、臨地実習における心理的安全性についての調査研究を行った。研究参加者はA 高等学校看護専攻科の学生 42 名、B 看護専門学校 of 学生 32 名の、計 74 名であった。

調査内容は、性格特性（外向性・協調性・誠実性・情緒安定性・開放性）についての 10 問、臨地実習における心理的安全性が 7 問、心理的安全性の 4 つの下位因子（話しやすさ・助け合い・挑戦・新奇歓迎）が 3 問ずつの計 12 問、対人関係リスクの 4 つの下位因子（無知・無能・邪魔・否定的）が 3 問ずつの計 12 問、記述式の質問（自由回答）が 1 問とした。

本研究について、第 1 に、看護学生は、対人関係のリスクを恐れて、発言することを控えてしまっているのではないか。第 2 に、心理的安全性が高ければ、学生自身の性格特性に差があったとしても、臨地実習の現場においても発言できるのではないか。第 3 に、看護学生の発言が促進されると、看護学生がより主体的に実習に取り組むことが可能ではないか。この 3 つの仮説に基づいて、仮説モデルを作成した。収集したデータに対して因子分析と構造方程式モデリングを行い、仮説モデルの修正を行った。その結果、臨地実習における心理的安全性の高さが、看護学生の心理的安全性に影響を及ぼしていることがわかった。また看護学生の性格特性について、臨地実習現場において心理的安全性が高ければ、性格特性に関係なく自発的に発言できるという仮説に対して、外向性・協調性・情緒安定性の高い看護学生においてのみ、自発的な発言が促されるということ

が示唆された。

看護学生の性格特性に対する配慮について課題はあるが、本研究の結果をふまえて、臨地実習における看護学生の心理的安全性を高められるように配慮することが重要である。具体的には、看護学生に対して怒らない（間違いを責めない）、臨地実習に対する不安を把握して、学生の不安を払拭できるような言葉かけをする、などの取り組みを行っていくことが求められる。